

A. K. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

小さい頃から海外で生活してみたい、英語力を伸ばしたいという夢がありました。将来は英語をバリバリ使った仕事をしてみたかったからです。そして大学に入ってから協定留学の存在を知りました。語学学校と大学の正規授業どちらも受けられる点と海外大学の授業料が同女の学費で相殺される点で魅力的に感じました。留学を考え始めた時期は1年の秋頃でした。2年の秋から留学をしようと考えていたのですが、部活で副代表を務めていたため3年春からの長期留学を決めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

とにかく IELTS で点数を取らないと協定留学に出願すらできないので、その勉強に励みました。正直 IELTS の教材が本屋さんで売っていなかったのですが、インターネットで調べるといくつか出てきました。私の感覚では IELTS は慣れだと思うので、過去問を何冊か購入して解きまくるか、実際にテストを何回か受けることをお勧めします（テストは受験料が結構高いですが、）。そして、意外と大事なのが GPA です。私は1年の春学期勉強をサボってしまっていたので GPA がよくなかったですが、1年秋～2年秋にかけて GPA を上げるために本気で勉強しました。その結果合計で GPA3.2～4（正確な数字は忘れました）を取ることができました。協定留学に合格する人はある程度 GPA がある人だと思うので、学校の勉強も怠らないことをおすすめします。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私たちの代は先輩がいなくて情報がなく、準備が本当に大変でした。特にビザ申請は本当に大変でした。エッセイを含めたくさんの質問に答えさせられます（もちろん英語です）。エージェントに頼めば簡単にビザ申請できるそうですが、私は泣きそうになりながらも自分たちでやってよかったなと思います。この壁を乗り越えたことで精神的に少し強くなったとを感じるからです！とは言っても結構大変なのですが、自力でできないことはない。と言っておきます（笑）あとは日本を全力で楽しむことです！春休みはバイトをしながら友達とたくさん遊んだり旅行したりして、日本料理を食べまくりました。そして英語の勉強も欠かさずやりましょう！わたしは準備として外国人ユーチューバーの動画を見たり、ラジオを聞いたりしていました。出発直前には留学に行くにあたっての買い物をし、留学に備えました。

④ 現地到着後

空港にはグリフィスから無料バスが来てくれました（マイページからバスの予約が必要で

す)。そこから各ホームステイ先に送ってくれました。とても大きい車だったので荷物は余裕で運んでくれます。次の日からオリエンテーションがいきなり始まりました。道に迷いまくったので初日から遅刻しましたが、何事もなかったかのように Hello と迎えてくれて安心しました。1日目は施設の使い方やオーストラリアでの過ごし方を教えてもらいました。キャンパスツアーもしてくれたのでその後は迷うことはありませんでした。2日目は他の留学生との交流イベントをした後、パソコンで基本情報の登録をしたりテキストを買いました。操作が分からなければ先生が駆けつけてくれるので安心してください。特に困ったことはありませんでした。

その後友達とガーデンシティに買い物に行きました（グリフィスの近くにある大型モール！困ればとりあえずここに行けばいい！）。ホームステイ先でもシャンプーやボディーソープなどの日用品は自分のもの使いました。家庭によって違うので聞いてみてください。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

特に困ったことはありませんでした。強いて言うならコピー代が高いです（1枚10円程度）。同女で無理で印刷できるのではじめは戸惑いました。自分のIDカードにあらかじめお金を入れればいつでも使えるのでその点は便利だと思います。授業が行われる建物の1階にGELI（語学学校）生だけが使えるパソコン室があります、図書館や24時間使える部屋はとても混んでいるのでその教室を有効活用して快適に勉強できました。大学の中に語学学校があるので他の施設は自由に使えます。特に24時間使える部屋（通称24hours）は課題が終わらないときに引きこもるスポットでした。でも寝ると叩き起こされるので、注意してください！私の代は日本人がたくさんいました。多分プログラムで定期的に来ているので皆さんが行くときもたくさんいるかもしれません。無理に避ける必要はないし、私も仲の良い日本人の友達がたくさんできましたが、留学の目的を考えて日本人と接するのがいいと思います。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は8時過ぎスタートだったのでとても朝が辛かったです（笑）出欠を取られるので遅刻しないように注意しましょう。確か出席率が80パーセントを切ると呼び出しを食らうので早起き頑張ってください！授業は昼1時に終わるので昼は基本自由時間です。私はGELIの教室に行って友達と勉強していました。課題の量は週によって差がありますが、結構な量が出ます。特にエッセイの締め切り間近はとても忙しいです。英語の文献や本をたくさん読んでレポートにするのは初めての経験でとても大変でした。しかし正規の授業でもその類の課題が出るので、慣れていて損はなかったなと思います。GELIでやることはすべて正規

授業につながるので、無駄なことはなかったように思います。他にもプレゼンやディスカッション大会があります。先生方は優しいのでわからないところはどんどん聞きに行った方がいいと思います。試験は筆記試験と文法の試験でした。筆記試験についてですが、難易度はそんなに高くないですがエッセイを書かないといけなかったので時間が足りませんでした。授業中に先生がヒントやテストに出るところを言うときがあるので常に集中して授業に臨めば、大丈夫です。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

図書館が個人的にホームです。1階はソーシャルスペース的なもので、話しても大丈夫です。私は友達とゲームをしたり、ピザパーティをしました。日本ではあり得ないくらい図書館が騒がしいです。図書館にいくと誰か1人は友達がいて、その友達の友達と仲良くなって、友達の輪がととも増えました。2階と3階はととも静かで勉強できる環境が整っています。試験中は24時間空いています。朝方まで大勢の友達と勉強したり遊んだりしてとても楽しかったです。またカフェテリアやレストランがととも充実していると思います。カレー、日本料理、ベトナム料理、ピザ屋など、多国籍の国ならではの様々な国の食べ物が大学内で食べられます。たまにフリーフードや割引チケットを配っているので200円くらいで大きいピザが食べられます。他大学の友達と話しましたが、そのような制度はグリフィスだけらしく、学生に優しい大学だと思います。大学自体は少し古いですが綺麗だと思います。今どんどん改装工事を行っているので新しく、綺麗になっていくと思います。あと、キャンパス内にどでかい鳥やイグアナ、コアラや小動物ポッサムがたくさんいます。とても自然豊かな学校なので毎日絶対何かしらの珍しい動物に出会えると思います。

◆ 履修科目

Trimester 2

観光系に興味があったので観光系の授業をとりました

• People and Place Service Industries

レポートで、1つの建物や場所に行って調べたことを3000wordsで書く課題がありました。結構きつかったですけど外に出る機会が多く楽しかったです。

• Food and Wine Tourism

1番のオススメの教科。日本では考えられませんが授業中にワインとおつまみを思う存分食べられます。ワイナリー見学にも行けて楽しかったです。

• International Tourism and Hotel Management Principles

観光学の基本を学びました。プレゼン、レポートがありますが比較的楽な授業だと思います。

Trimester3

選べる授業が少なくほぼ消去法でした。

・ Understanding the social world

毎回小テストとディスカッションがあるので復習をしないと置いて行かれます。週2で500wordsのレポートがあり、食らいつくの必死でした。

・ Ideas, Issues and Inquiry

先生が適当だったので正直授業の意味がわかりませんでした。先生が優しくクラスの学生も穏やかなのでリラックスするにはいい授業だと思います。

・ Language and Communication for Business and Commerce

留学生向けの授業だったので簡単でした。GELIの復習が多かったのでアカデミックスキルをもう一回勉強したい人にはオススメです。みんな留学生なので友達はたくさんでき、授業内では笑いが絶えませんでした。

◆ 授業、レポート、定期試験

はじめはディスカッションでネイティブの英語のスピードについていけず、疎外感と情けなさを感じました。はじめの授業では本当に何も話せず授業が終わりました。しかしなんの爪跡も残さないのは悔しいと思い、授業後に横に座っていた子に話しかけました。彼は私ととっている科目も似ていたため、とても助けてくれました。正直、ディスカッションでネイティブのように発言することや、課題を一から1人でやるのはとても大変なので、友達に頼ってもいいと思います。オーストラリア人は本当に優しいし、頼ったら絶対に助けてくれます！わからないことを恥ずかしがらず、友達や先生に頼りましょう！私は1 trimesterで3科目とっていましたが、食らいついていくのに必死でした。最大5科目まで取れますが友達と遊ぶ時間を確保するためにも3科目がオススメです！グループワークが結構ありますが、感じたことはオーストラリア人全然課題をやってこない、、（もちろん個人差はあります）です。努力すれば意外と自分の方が賢くなる可能性もあるので自分に自信をもって勉強しましょう！（笑）テストと言えば、1科目で0点を取りました。先生にも抗議したのですが結果は変わらなかったです。推測ですが、シャーペンで回答したことが理由だと思います。テストによってはボールペンしか使えないものがあるので要注意です（泣）

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は大学のバレーボール部に所属しました。部活というよりも週一で試合をするとてもゆるいものです。グリフィススポーツと呼ばれていて年に3回チーム分けをしたり、新たに加入したり退会できます。わたしは友達を作りたかったので加入しましたが、バレーをやったことがなかったのでメンバーにだいたい迷惑をかけたと思います。メンバーのみんなが優し

かったのでとても楽しかったです！初心者でもできるものなので挑戦することをお勧めします！2週に1回のペースで週末に友達同士でバレーを楽しんでリフレッシュをしました。ボランティア活動に関しては8月ごろに日本の文化をオーストラリアに広める祭りのスタッフをしました。たくさんのお客さんを接客したり、準備や片付けをするのは大変でしたが、友達もできて楽しかったです。そこでオーストラリア人は列に並ぶのが好きではないと学び、話しかけるなど工夫をして退屈させないように心がけました。オーストラリア人と話すことで文化の違いを実感でき楽しかったです。

⑧ 現地での住まい

・語学研修期間：ホームステイ

両親、子供（5歳と8歳）の家族の家に3か月間ステイしました。学校から近かったので歩いて学校に行きました。8歳の子は俳優をしていたためとても忙しそうにしておりあまり話せないのが残念でした。5歳の子はやんちゃでしたがとても人懐こくて可愛かったです。しかし、両親がとても子供に厳しく、毎日のように怒られていてかわいそうでした。子供達自体はとても懐いてくれて、遊ぼうといつも駆け寄ってきてくれましたが、お母さんが早く寝なさい、ご飯食べなさいと子供達の生活をしっかり監視しており遊べなかったのが本当に辛かったです。嫌な家族ではありませんが、当たりかハズレかでいうと、ビジネスでホームステイを受け入れている感じだったので当たりとは言えません。友達の家庭はとてもたのしそうでしたし、全部が全部よくないとは限りません。本当に耐えられなくなったら変えてもらうように頼むこともできます。

・正規授業期間：寮

まず寮についてですが、8人シェアメイトがいます。個人の部屋はありますが、キッチンやトイレなどは共用です。私は1回引越しをしました。1回目の寮ではすごくキッチンを汚す女の子がいました。2週に1回点検があり、汚いと思なされたら80ドル罰金されます。4人の子は掃除を全然しなかったので私と3人のシェアメイトで毎回掃除をしていました。彼らと文句を言いながら掃除をするのも今思えば楽しかったです。次の寮はとても良かったです。1回目の寮が嫌で変えたのではなく、**Trimester3**になると住人がひとつの建物に集められるので強制的に引越しをさせられました。みんな仲良くしてくれてピザパーティをしたりご飯を作って一緒に食べたりしました。寮によって本当にメンバーが違うので一概には言えませんが、女子寮の方が割とハズレが少ない気がします。寮は学校まで歩いて5分程度なので朝授業ギリギリまで寝られます！あと、寮も嫌だったら部屋を変えられるので安心してください。

⑨ 長期休暇の過ごし方

基本的に旅行をしていました。GELI 修了後から正規科目履修までの 1 週間は同女の友達と旅行をしました。シドニーに行ってリフレッシュしました。たったの 1 時間で行けるのでとてもいいと思います。ブリスベンとは違った都会感を味わいました。Trimester2 から Trimester3 の間も 1 週間しかありませんでしたが、友達とキャンピングカーを借りてケアンズまで 3 日かけて旅行しました。夜は友達と話したり、バーベキューをしたり綺麗な夜空の下で寝たり、本当に楽しかったです。Trimester2 と 3 の間はテストの有無などで休暇の長さが変わってくるので個人差があります。休暇が 1 か月あると日本に帰っている人も何人かいましたが、せっかくならオーストラリアを満喫することをお勧めします！

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は 3 年の 2 月くらいに帰ってきたので正直就活は遅れをとりました。オーストラリアにいる間は存分に楽しめたかったので、あまり準備をしていませんでしたが、自己分析など海外でもできることはやることをお勧めします。あと、毎月同女に提出するレポートは就活する時に役立ちますので飾らずにありのままの自分を書いてみてください！

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学最終日です。友達が最後の日だから出かけようと綺麗なビーチに連れて行ってくれました。そこで馬鹿なことをして騒いだのは一生の思い出です。その夜は Mt Cootha という夜景が綺麗なスポットに連れて行ってもらい、とても感動しました。はじめは友達が 1 人もいなかったのが友達になってくれたみんなには本当に感謝いっぱいです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ホームシックになったことです。オーストラリアに行ってから 1 週間経ったときにホームシックになりました。日本の家族や友達を思い出すたびに泣いていて勉強に集中できませんでした。私は家族や友達に電話して元気をもらっていました。1 週間くらい続いた後、だんだん友達が増えてきてその後ホームシックになることはありませんでした。ホームシックになることはごく普通のことなので心配する必要はありません。私も世界の終わりかと思ったけどすぐに吹っ切れました。今ではオーストラリアシックです、、、、

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリア人はとても自由だと思います。日本だと〇〇をすると恥ずかしいと引かれるということがあるかもしれませんが、向こうでは何をしていてもありです。道端で大声で歌っている人、鼻歌を歌ってスケボーをしている人。何をしていてもその人が楽しそうだったら

周りのみんなものって楽しそうにしています。とてもいい文化だと思いました。逆に自由すぎでバスや電車が予定通りに来ないことが日常茶飯事でした。でも、みんなイライラせずにじっと待っているのだからこんなもんかと思って待つようにしていました。ほんとうに良くも悪くも自由な国です。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

いい点は学生や先生が本当に優しいことです。困ったら絶対に誰かが助けてくれるし、友達もたくさんできます。でも基本話しかけないと話してくれないので積極的に話すことが友達づくりで大事だと思います。悪い点は、学校が山にあることです。そのせいで虫や動物が結構います（特にハエ）。あと買い物に行くのにバスを使わないといけなくて少し不便だと感じました。寮に関してはエアコンがないことです。夏場は暑すぎて死ぬので図書館に避難することと扇風機を購入することをお勧めします。夜中はそんなに暑くなかったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

- ・パソコン（大学にもありますが自分のものがあると圧倒的に便利）
- ・日本のお土産（友達づくりのきっかけに）
- ・日本のクレジットカード、筆記用具、常備薬

基本的に何でも買えますがクオリティーは期待しないほうがいいです。文具類は日本のものが格別にいいと思うので持っていくことをお勧めします。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はもちろん、外国人への抵抗がなくなりました。日本に行く前は日本に外国人がいるとビビっていましたが、帰ってきてからは抵抗がなく、むしろ助けてあげたくくなります。オーストラリアでたくさんの人に助けてもらったからだだと思います。異文化の国オーストラリアなのでたくさんの方の人と価値観を共有できました！語学力面ではとにかく友達と話すことが好きだったので個人的にはスピーキングとリスニング力が上がったように思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

はじめはできなくて当たり前です！私もできなくて何度も泣いたことがありますが、ときには友達に頼りながらゆっくり進んでください。ダメダメの自分でもできたからみなさんでもできるはずですよ！自分の軸があれば何が起きても乗り越えられます！！私は留学をすることを強くお勧めします！価値観が変わるし、海外でしかできない経験ができるし何よりもめちゃくちゃ楽しいですよ！初めの一步を踏み出して自分の世界を広げてください。応

援しています！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

オーストラリアで観光学を学んだ経験とたくさんの人に助けってもらった経験から、日本に来る外国人観光客を助ける仕事に就きたいと思っています。今は旅行業に就職して、訪日インバウンド事業に関われたらいいなと思っています。将来数年でもいいからオーストラリアで働いてみたいです。それくらい素敵な国です！

V. 写真



友達がサプライズで誕生日を祝ってくれました。21歳の誕生日はオーストラリアやアメリカでは盛大にパーティをするそうです！



祭りのボランティアをした時の写真です。日本のお酒が飛ぶように売れとても嬉しかったです！



留学生活最後の日にみんなでビーチに行きました。素敵な仲間に出会えたことがいちばんの素敵な思い出です！

N. T. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は高校時代から漠然と留学に行きたいと考えていましたが、本格的に考え始めたのは 1 回生の夏休みからでした。外国の方々と接する機会があり、私も英語を使ってコミュニケーションを取りたいと思ったことがきっかけです。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

1 回生の秋ごろからは、英語の課外講座や English camp、IELTS 対策講座に参加するなど、積極的に英語力を伸ばせる環境にいるようにしました。また、出願までは、IELTS 技能をカバーしているテキストを使用し、目標のスコアを取得できるように、勉強しました。特に私は writing と speaking が苦手だったので、文の構成のパターンを何度も書いて覚えたり、speaking はイメージトレーニングや声に出して話す練習をしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは、できるだけスピーキングを伸ばすことを目標として、英語の授業中でもできる限り発言するようにしたり、アプリを使用して海外の人と電話をしたりしていました。また、留学中に使いそうな日常単語を積極的に覚えるようにしました。勉強面以外では、オーストラリアの文化や礼儀なども調べました。

ビザの申請では、途中でエッセイを作成しなければならなかったのですが、思っていたよりも時間がかかったため、CoE がまだ到着していない段階からある程度、エッセイを考えておくと、よりスムーズに申請できると思います。

④ 現地到着後

現地到着後は大学のエアポートピックアップサービスを利用して空港からホームステイ先まで送ってもらったので、40 分ほどで滞在先に到着することが出来ました。語学学校のオリエンテーションでは、大学内をガイドしてもらったり、学内の医療機関やセキュリティサービスについての説明などをして頂きました。その他の手続に関しても、事前に知らされていた書類などの持ち物を持っていくと、スムーズに行うことが出来ました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校在学中でも、正規の大学の図書館やコンピュータールームを使うことが出来ました。また、その他にも語学学校生専用の勉強室があったので、図書館などが混雑している日でも、勉強場所に困ることはありませんでした。

語学学校にはある程度の日本人も在籍していたので、自分で日本語を使いすぎないように気を付ける必要がありました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容に関しては、大学準備コースだったこともあり、ディスカッションやペアプレゼンテーション、チュートリアル等、大学の正規授業で実際にしなければならないことを、語学学校で全て経験しておく、という印象を受けました。また、参考文献の書き方や引用の仕方なども教えて頂き、正規授業でも大いに役立てることができました。課題は、基本的に、テキストを読んでくると、提出しなければならないレポートの作成を進めていくというものが多かったと思います。レポートの作成に関しても、先生方が何度も下書きや構成を確認して下さるので、「英語でレポートを書く力」だけではなく、そもそものレポートの書き方についても学ぶことができました。また、課題の量が多いので、時間をうまく使ってこなしていくことが大切だと感じました。

試験は、ほとんどが2時間の筆記試験でした。授業で習ったことをきちんとできていると大丈夫だと思います。合否については後日、インターネット上で発表されました。

語学学校では、勉強だけでなくいろいろなイベントが企画されていて、授業やそれらを通して、様々な国からの留学生とより親しくなることができました。大学の正規授業履修の前のステップとしても、他国からの留学生と仲良くなれるという意味でも、私は語学学校に通ってよかったと思っています。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

ネイサンキャンパス内は広々としていて、とても過ごしやすかったです。大きい図書館がありますが、試験期間中は特に混雑するので勉強場所を見つけにくかったです。また、セキュリティセンターが24時間空いているので、比較的、安全に過ごせました。

◆ 履修科目

• 1402LHS Language, culture and society

この授業の全体を通しては、言語や文化や社会を通してのアイデンティティについて考えました。チュートリアルでのディスカッションが盛んで、意見を発言できる機会も多かったです。

• 2007LHS Language of East and Southeast Asia

この授業では、タガログ語、中国語、タイ語などアジアで使われている数か国語を言語学の視点から分析しました。専門用語がたくさん出てきたこともあり、オンラインクイズや期末試験にはかなり苦戦しました。

・ **2204LHS English words and grammars**

英語についての知識を深めたいと思ったので、この授業を履修しました。この授業では、英語の単語のつくりや成り立ちなどを学びました。オーストラリア英語に関するチュートリアルもあり、興味深かったです。

・ **1007LHS Understanding the social world**

この授業では、様々な社会問題について、主にクラスメイトとのワークショップを通して、視野を広めていきました。オーストラリア社会とそれ以外の国の社会の相違点も知ることができました。また、毎週課題として、500words のエッセイが2つ出されるので少し大変でした。

・ **1061LHS Ideas, issues and inquiry**

この授業は、自分たちが自ら何らかのトピックを設定し、それに対して、ディスカッションなどで意見を出し合うというものでした。プレゼンテーションやレポートでもトピックの自由度が高かったです。

・ **5901LHS Language and communication for business and commerce**

この授業は留学生のみが取ることのできるクラスで、主に英語でのエッセイの書き方やプレゼンテーションの仕方などを学びました。先生もゆっくり話してくださっていたので、雰囲気は語学学校に近いという印象を受けました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

ほとんどの授業はレクチャーとチュートリアルに分かれていて、レクチャーの内容をもとにチュートリアルでクラスメイトと意見を交換するためのディスカッションを行うという形でした。その他には、ワークショップだけの授業もありました。ワークショップでは、ディスカッションを行いながらも、その中で新しい内容も学習するという印象を受けました。定期試験に関しては、エッセイを書かなければいけないものと、一問一答のような問題&ショートエッセイという2つのスタイルがありました。難しい問題も多かったのですが、分からないところは事前に質問するなどして、勉強をすれば大丈夫だと思います。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

私は、語学学校終了後からヨガクラブに所属していました。ヨガの先生もフレンドリーで、新しい友達も作ることができたので、とても有意義な時間だったと思います。また、帰国の2か月ほど前からはネットボールのチームに所属していました。ネットボールは日本ではあまり馴染みのないスポーツだったので、ルールさえもあまり分かっていませんでしたが、チームメイトが優しく教えてくれたので、楽しい時間を過ごすことができました。友達を増やすという点でも、勉強からのリフレッシュという点でも、何らかのクラブ活動に参加するこ

とをお勧めします。

また、私は日本語ボランティアをしたいと思っていましたが、行動を始める時期が少し遅くなってしまったこともあり、活動することができませんでした。子供と接するボランティアを希望する場合はブルーカードというカードが必要になり、それを取得するためには数週間必要なので、もしボランティア活動を希望している場合は早めに行動し始める方がいいと思います。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

語学学校で勉強していた 10 週間はホームステイをしていました。ホームステイは渡航前に、専用のサイトでアカウントを作り、自分でホームステイ先を選んで申込みました。晩御飯はホストマザーが作ってくれていたのですが、自分で作る必要はありませんでしたが、朝ご飯と昼ご飯は自分で準備をしていました。晩御飯は家族みんなと一緒に食べていたので、ホストファミリーとも仲良くなれました。

大学の正規授業が始まると同時に寮に引っ越しました。入居する寮を決定する前に、部屋やいくつかのフラットの見学をさせてもらい、自分に一番合っていそうなフラットを選ぶことができました。私は女子寮に住んでいたのですが、女子寮は人気があり満室になりやすいので、早めに予約する方がいいと思います。食事は基本的には自炊をしていましたが、フラットメイトと一緒に料理をすることもありました。寮の設備に関しては、冷蔵庫や電子レンジなど大きめの家電製品類は備え付けてありましたが、フライパンやお皿などの食器類は自分のものを購入して使用していました。フラットには暖房はありましたが、冷房はなかったので扇風機を買いました。また、ベッドのシーツや掛布団なども自分で購入しました。寮の場所は、大学のすぐそばにあるので、各教室まで歩いていくことができました。また、寮では 2 週間に 1 回、フラットがきちんと掃除されているかがチェックされるインスペクションがあり、掃除されていないと 80 ドルを払わなければいけませんでした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇の間は、旅行に行くことが多く、シドニー、ケアンズ、メルボルン、ゴールドコーストを訪れました。ブリスベンとは、一味違う街並みや雰囲気を感じることができたので、良い経験になりました。シドニーはオーストラリアで一番大きい都市というだけあって、人も多かったのですが、オペラハウスやハーバーブリッジなど、オーストラリアを代表するものを目の当たりにし、自分が本当に留学中なのだと改めて実感することができました。ケアンズでは、グレートバリアリーフとキュランダに行き、シュノーケリングをしたり、有名な列車に乗るなど、ハードながらも充実した旅行をすることができました。ゴールドコーストでは、熱帯雨林へ土笛を見に行きました。メルボルンは、ヨーロッパ風の建築物が多く、オー

オーストラリアの歴史を肌で感じました。それぞれの旅行で、海や山など、日本とは比べ物にならないほど壮大な自然を感じ、その地でしか見ることのできない景色や建造物を目にし、新たなエネルギーを蓄えることができたと思います。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は教員免許を取ろうと考えていたので、急いで就職活動を行う必要はありませんでしたが、自己分析などは少し行っていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことは数えきれないほどあり、一つに決めることは出来ませんが、現地で仲良くなった友達と一緒に過ごしている時が楽しかったです。寮のフラットメイトとはムービーナイトを開催したり、クリスマスパーティーをしたり、ビーチに行ったりしました。寮にいても、車の中でも、歌を歌ったり踊りだしたりと、とにかく明るくて、一緒にいると元気になりました。また、試験前はフラットと一緒に夜中まで勉強し、私分からない箇所があると、教えてくれるなど、とても優しくしてくれました。授業を通してできた友達とは、試験やプレゼンテーションが終わった後に一緒にご飯を食べに行ったり、買い物をしたりしました。大変だった試験などを一緒に乗り越えてきたので、お互いに唯一無二の友達になりました。日本からやってきて、英語も完ぺきには話すことのできなかつた私を受け入れてくれて、迷惑をかけるかもしれない私とプレゼンテーションのペアになってくれた友達たちには感謝しかありません。

また、授業に関して最も心に残っていることは、私がプレゼンテーションをした時の事です。それまでのチュートリアルでは、ディスカッションの時に意見があつたとしても、緊張してなかなか発言できませんでしたが、プレゼンテーションを通して、クラスメイトは私が話すことをしっかりと聞いて理解しようとしてくれているということに気づくことができたので、その日を境に、失敗を恐れずに積極的に発言できるようになりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学はすべてが刺激的で何事も楽しんで取り組めたので、特につらいと感じたことはありませんでしたが、私が最も考えて努力したことは友達作りです。授業では、自分から行動しないと友達が出来にくいと思ったので、できるだけ自分から挨拶をしたり名前を尋ねたり、話しかけるようにしました。また、日本にあまり興味のない人とも友達になりたかつたので、日本のこと以外の話題で話しかけたりもしました。私は人見知りだったので、初めて会う人に自分から話しかけることはとても緊張しましたが、この経験のおかげで、少しは人見知り

を克服することができたと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化の違いでまず驚いたことは、裸足で外出している人を見かけたことです。日本では裸足でスーパーに来ている人を見たことは一度もありませんでしたが、留学中には何度か遭遇し、私のホストシスターも時に裸足で出かけていました。また、ビーチに行くとき以外でもビーチサンダルを履いている人が多く、オーストラリアらしいと感じました。このような小さな点にも、自由な国民性が表れていると思いました。

その他にも、私のオーストラリア人の友達が車の免許を16歳で取得し、高校にも車で通っていたと話していたことにも衝撃を受けました。その友達の住んでいた地域では、バスの本数も多くはなく、高校が車通学を許可していて、それが一般的らしいです。その話を聞いたときは、公共の交通機関が充実していて、面積がとても小さい日本と、広大な面積で日本よりも車社会が進んでいるオーストラリアとの違いに気が付きました。

授業に関しては、ほとんどの学生が、積極的に質問をしたり、先生が学生に何も尋ねなくても自ら進んで発言をしていることに驚きました。留学前から、海外での授業への取り組み方やその様子などは、聞いていましたが、実際に自分がそこに参加してみると、思っていた以上に授業が盛り上がっていて、講義を聴くことかメインの日本の授業とは全く違いました。しかし、一旦自分もその場に馴染んでしまえば、私自身も楽しく授業を受けることができました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

グリフィス大学の良かった点はキャンパスが広くのびのびとした環境で過ごせたことです。ネイサンキャンパスは森に囲まれていたこともあり、色鮮やかな鳥やポッサムなど日本では見ることのできない野生の生物もたくさん見ることができました。グリフィス大学の学生の印象としては、基本的にみんなフレンドリーで、かしこまっているというよりは、アットホームな雰囲気のある大学だと感じ、馴染みやすかったです。

あまり良くなかった点は、Trimester 3に開講されている授業数が極端に少なかったことです。グリフィス大学は3学期制に変わってから間もなく、また、メインはTrimester 1&2で、Trimester 3の間は長期休暇を取っている学生が非常に多かったため、Trimester 3の授業数としては、あまり充実していませんでした。そのため、興味のある授業を見つけにくく、授業選択の幅も狭まってしまいました。グリフィス大学は、これからTrimester 3の授業数を増やしていく方針らしいので、この問題は改善されるかもしれません。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

私が日本から持って行って良かったと思ったものは、電子レンジでご飯が炊けるライスクッカーです。オーストラリアでも炊飯器や電子レンジ用のライスクッカーを買うことはできましたが、ちょうどいいサイズのものはありませんでした。なので、ライスクッカーはとても便利で重宝しました。それ以外は、オーストラリアにもダイソーがありお箸なども購入できたので、困ることはありませんでした。

また、大学のパソコンは混んでいて使えないときもあるため、自分のものがある方が便利だと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

全体を通して、私の英語力は向上したと思います。毎日の授業を英語で受け、英語で課題をこなし、英語で友達とコミュニケーションをとることを通して、机に向かって勉強していた英語よりも、実際に生活の中で使われている生きた英語を学ぶことができました。それまで使っていた英語よりも簡単な表現で言いたいことを伝えられるなど、毎日の発見が多くとても刺激的でした。しかし、それ以上に、自分の英語に自信が持てるようになったことが大きいと思います。留学前や留学初期の頃は、「実際に私の英語がネイティブスピーカーに伝わるのか」や「私が学習してきた英語は間違っていないのか」など自分の英語に自信を持つことができず、それが原因で、発言や話しかけることを諦めてしまうことが多かったです。ですが、留学を通してだんだんと、私の英語が通じることが分かってきたり、伝えようと思えば相手も理解しようとしてくれることに気づいたりして行くうちに、自分の英語に自信を持てるようになりました。自信が持てるようになったことで、英語で発信していきたいという思いが強くなり、よりスムーズに英語で会話もできるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に少しでも興味がある人は、情報収集や IELTS 受験など、早いうちから行動しておいた方がいいと思います。留学生活は毎日、新しい発見があって刺激的で夢のような時間だったので、何事にもチャレンジして頑張してほしいです。

IV. 将来の目標

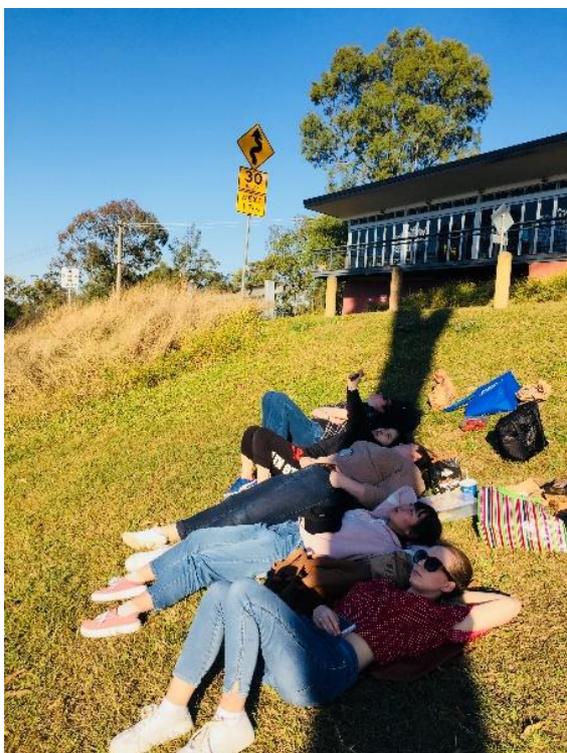
① 今後の進路、将来の目標・夢

大学を卒業した後は、科目等履修生として教員免許を取得しようと考えています。教員免許を取得した後は、教員採用試験を受けて、高校の教員になることを目指しています。私の留学生活での経験や発見をもとに、少しでも生徒に世界が身近に感じてもらえるような教員になりたいと思っています。

V. 写真



語学学校の卒業式で撮ったクラス写真です。たくさんあった課題もみんなで助け合いながら乗り越えることができました。語学学校を修了するときは、嬉しいような悲しいような複雑な気持ちでした。



フラットメイトとピクニックに行った時の写真です。天気が良くて気持ちよかったので、みんなで日向ぼっこをしました。



これはゴールドコーストで夕日をバックに撮った1枚です。高台から眺める夕日はとてもきれいで、癒されました。



これは日本人とオーストラリア人でディナーパーティーを開いたときに撮った写真です。オーストラリアではよく食べられているパブロバというスイーツや、マンゴーなどおいしいものをたくさん食べました。



帰国直前にグリフィス大学で勉強していた記念として撮った写真です。オーストラリアでの留学が終わってしまう寂しさと達成感を感じました！今ではこのグリフィス大学のロゴマークでさえ愛おしいです。

S. K. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校時代にした 10 日間のイギリス留学での海外文化や慣習を学んだ経験から、海外により興味を持つようになり、大学入学以前から留学を大学生活中にしたいと考えていました。そして大学入学後すぐに、留学についての情報を手に入れるため国際課に何度も通い、単位認定や金銭的メリットから、2 年次での 1 年の協定留学を目指すことを決めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私の家は大学から遠く、毎日往復約 5 時間かけて通学していました。その時間を無駄にしないよう、留学に向けての英語の勉強を通学中にするようにしました。毎日通学時間にする勉強方法は 2 種類あり、1 つは『Dialogue 1800』という本を何周も熟読し、新単語や読解を完璧にすることでした。気分にあわせて、会話文の音声も聴くようにしていました。2 つ目は、「スーパー英語」の IELTS 単語集で自分がすぐに意味を答えることができなかった単語や、全く知らない新単語をすべて書き写したノートで暗記する勉強です。単語を書く際は発音記号もすべて書くようにしていました。そして、私はスピーキングに自信がなかったため、普段から積極的に同女の無料の英会話クラス（English Chat Room）に参加しネイティブの先生とお話しし、少しでも英語を話す機会を増やすようにしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後の語学勉強は決定前と特に変わりませんでした。出発前は留学に向けて必要なものの購入や、海外の大学との事前手続きでとても忙しかったです。オーストラリアのビザ申請手続きはとても複雑で難しく、長い時間をかけなければなりませんでした。

④ 現地到着後

空港からは事前に Griffith のサイトから予約しておいたピックアップのサービスで、約 1 時間の運転でホームステイ先まで移動しました。オリエンテーションは現地到着日の次の日に行われ、慌ただしかったように思います。原則でホームステイ先に着いてすぐに 1 か月分の料金を払うことになっていたのですが、日本であらかじめホームステイ代の現金を用意していききました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校は Griffith に併設していて、放課後の課題は Griffith の図書館や語学学校の学生のみが使える部屋などで勉強することができました。授業が終わった後の午後から、自主学

習のしやすい環境であったと思います。

◆ 授業内容、課題、試験

授業では書く、話す、読む能力を鍛えられました。英語での学術用エッセイの書き方、プレゼンテーションの仕方、学術書の速読方など、大学では教えてもらうことができない必要不可欠な知識を得ることができました。課題は基本的に毎日あり、2 日後の同じ授業までに終わらせることがサイクルになっていました。課題や授業は厳しくも中身があり、それらの経験は大学での授業に大いに役立てることができました。試験は文法能力とエッセイを正しく目的に合わせて構成する力が試されるライティングでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

自習は主に図書館でしている学生が多かったです。図書館には静かなエリアと友達と話しながら勉強できる所もあり、目的に合わせて場所を決めやすかったです。大学に無料で使えるパソコンもありましたが、私は主に自分のノートパソコンを持ち歩き、好きな場所で勉強するようにしていました。

◆ 履修科目

• Language, Culture, and Society

この科目は社会言語学についてであり、言語、人間そして社会の関係性について学びました。この授業の主なテーマは人間の多様性について研究することだったように思います。教授達は英語を第二言語として学ぶ留学生達への理解も大いにあり、とても楽しんで授業を受けることができました。

• Foundations of Academic Writing

この授業では語学学校の時に受けた科目のように、何か一つのテーマについて研究することが主な授業内容でした。エッセイは何が人間を人間にさせるかというテーマが定められていて、私は仕事場での AI と人間の能力を比較して人間でしかできないことについて議論しました。

• English Words and Grammar

この科目のテーマは英語という言語について研究し、シンタックスなどの観点から単語と文法は互いに関係していることを明らかにすることでした。受講者のほとんどがネイティブの人達で、その方達も難しいと困惑していました。

• Understanding the Social World

この授業では人間と社会の関係から社会学を学び、世界の諸問題について議論する授業でした。インテンシブのコースであったため、週 2 回 500 文字程度のレポートを提出しなけ

ればならず、少し忙しかったです。

• **Ideas, Issues and Inquires**

この授業は人間アイデンティティーについて人種、文化、言語、社会ルールなどの社会学の観点から考察する授業でした。毎回授業後に指定された学術書からの考察を100文字にまとめて提出する課題がでていました。

• **Introduction to American Politics**

この授業ではアメリカ政治の基礎の枠組みから学んでいく授業でした。毎回授業前にチュートリアルで議論される記事を読むことが、義務付けられてました。専門用語がとて多く、予備知識のない私にはとても難しかったです、やりがいのある授業でもありました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業は、発言することに慣れるまで時間がかかりました。予習や復習をすることで授業内容の理解をしやすくなったように思います。ほとんどの授業が最終評価はエッセイまたは筆記試験でした。筆記試験は主な問題は一問一答ではなく、複数のエッセイを書く問題形式が多く、暗記ではテスト対策ができない問題ばかりでした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブには所属していませんでした。バドミントンのクラブに所属したかったのですが、他大学でも経験者向けのものばかりでした。一度ブリスベンで行われた日本の祭りに Facebook から応募し、ボランティア活動をしました。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

私は Griffith のサイトから申し込み、留学中ホームステイをしていました。最初のホームステイ先では多数の厳しいルールがあり、合わなかったため、留学2週間後に Griffith に別のホームステイ先を手配してもらえるように頼み、変えてもらうことができました。その後は別のホームステイ先で約10か月過ごすことができました。自分の部屋や1人のホストシスターと共同で使うバスルームもあり、不自由なく過ごすことができました。食事は、西洋料理やアジア料理も食べることができました。ファミリーに朝昼晩の食事を用意してもらいましたが、家族が1週間ほど旅行に行くときや金曜日の夜は、時々自分で作らないといけない時もありました。私の家から学校は最短のバスルートを使えば、15分程度でたどり着くことができる距離にありました。私の住んでいた地域のサニーバンクは薬局、スーパーマーケット、アジアンスーパーマーケットやレストランがあり、生活必需品などをすぐに買える状況でした。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

長期休暇はなく、1、2週間程度の学期の間の休暇中にオーストラリア内で旅行をしました。

シドニー、ケアンズ、メルボルン、ゴールドコーストに行くことができました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

2 回生であったため、2019 年度に行われる就職説明会についてのみ調べました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

たくさん思い出深いことはあるため、書ききれません。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

自分の専門外であるアメリカ政治の授業についていき、各回の授業を理解することに、とても苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリア人の仕事の終業時間が 5 時半ぐらいで、働きかたも個人のライフスタイルに沿っていることに驚きました。ほとんどのお店も 5 時ぐらいに終了していました。毎週金曜日には、アルコールをたくさん飲むパーティーへほとんどの人が行っていたように思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は大学側に多国籍の留学生への理解があり、サポートなどが十分にあることです。図書館などでは、文法チェックや参考文献の検索などのサービスもありました。Griffith の学生向けにフリーフードもほぼ週 2 回、提供されていました。

悪かった点は特にありません。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンは課題を自宅や大学内の自分の好きな場所でするために、必需品です。持ち歩きしやすいものをおすすめです。海外の薬は、日本人にとっては効能が強すぎるものも多く、使いなれた自分にあつた薬を持っていくことをお勧めします。

現地にもダイソーがあり、値段が一品 2.8 ドルと少し高いですが、日本のものを手に入れることができます。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

ホームステイ中にファミリーと会話を毎日することにより、生活用語やオーストラリア英語を学ぶことができ、自分のスピーキング能力の向上にも役立てることができました。留学前と後では、単語知識、スピーキング能力、読む能力や書く能力を飛躍的に向上させること

ができました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は自分の人生を変えうる貴重な経験なので、留学に行こうか迷っている方は必ず挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

仕事では商社または、グローバル展開をしているメーカーで勤め、自分の語学能力を使いたいと思っています。将来的にはもう一つ違う言語も身につけて、仕事に活用したいと考えています。

V. 写真



オーストラリア人の親友とオーストラリア人達のパーティーに行く前に撮った写真です。
メイクも彼女にしてもらいました。



帰りの飛行機のトランジットで寄ったシドニーの昼と夜に撮ったオペラハウスの写真です。
両方ともとてもきれいでした。



中国人の親友と、今までに一緒に撮った写真です。彼女との思い出は数えきれなく、彼女といるときはいつも笑顔でいました。



グレートバリアリーフのグリーン島の海の写真です。ここでシュノーケリングを楽しみ、たくさんの魚、ウミガメ、サンゴ礁やサメも見ることができました。海は透き通っていてとてもきれいでした。



ゴールドコーストのブロードビーチでの写真です。とても天気がよく、潮風が気持ち良かったです。